

2 保育所（園）・幼稚園における子どもの読書活動推進

① 保育所（園）・幼稚園の役割

幼児期は、生涯にわたる人格の土台を形成する大変重要な時期です。絵本の物語を通して他人を思いやる心や社会のルールを学び、基本的な道徳心を育みます。そして読書の習慣を定着させるためにも、本は楽しいものだとして認識させ、関心を持たせる事が大切です。

② 現状について

本市の保育所（園）や幼稚園では、積極的に読み聞かせに関して取り組んでおり、絵本コーナーや読み聞かせコーナーを設置し、幼い頃から本に親しむ工夫をしています。保護者へ絵本の貸出を行ったり、読書についての講演会を実施するなど、その重要性和効果を伝えています。幼稚園では、保護者ボランティアを活用した絵本の読み聞かせが行われています。

③ 課題について

幼児期の子どもが使用することから蔵書の傷みが早く、本の整備、廃棄、新規購入が必要とされていますが、財政的課題から対応が進まない状況です。特に幼稚園では近年の行政予算の縮小のあおりを受け新規購入がままならず、保護者へ負担をお願いしているところですが、圧倒的に不足している状況です。公共図書館の団体貸出利用についても、破損や紛失が気になることや、本の運搬方法や対応する職員についても限りがあることから、なかなか利用が進まない状況です。

また幼稚園で行われている保護者ボランティアによる読み聞かせは、毎回同じ顔ぶれになりがちで、人材をどう広げていくか課題があります。本の貸し出しや読み聞かせに全く興味・関心を示さない保護者への取組、読み聞かせの技術向上を求める保護者への対応が課題となっています。

④ 保育所（園）・幼稚園の取組

ア 絵本コーナーの工夫

子どもや保護者が利用しやすい図書の配置、目をひく展示方法などに創意工夫をこらした貸出を推進します。

イ 公共図書館、小学校図書館との連携

蔵書不足を補うため、積極的に公共図書館や小学校図書館との連携を図ります。

ウ 子どもの読書活動への関心を高める取組

保護者が集まる機会に保護者間での話し合いの場の設定や、良書の紹介、勉強会の実施など、読み聞かせや子どもの読書活動における意義・効果を積極的に周知します。

⑤ 市の取組

ア 職員の研修会、勉強会の開催

読み聞かせ、エプロンシアター^(注1)などのスキルアップを図るほか、他施設と連携を図りながら、講師を招いて勉強会を行うなど、情報交換を行いながら積極的に課題解決に努めます。

(注1) エプロンシアター・・・胸当て式のエプロンを舞台に見たて、ポケットから取り出した人形を付けたり取りはずしたりしながらお話を展開していく方法。